

## 事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和6年2月1日

事業所名 コペルプラス 東久留米 教室

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11			
	②	職員の配置数は適切である	9	2	生理痛や子供の発熱など、急なお休みを取ることが多いスタッフ間で、人員が足りなくなないように、休みでも出勤出来る時間帯があれば出勤していただくなど、協力体制を整えていけるよう検討中です。その他、他教室からの応援依頼体制を整えています。	欠勤が出ると足りていないと感じることがある。 (基準人員は満たしている)
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	11			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11			
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	11		目安箱を設置し、スタッフ間で情報を共有し検討会議を通して、改善に繋げていく仕組みがある。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11			

	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	1	事業所内評価の結果および改善内容などはホームページを通して公表されています。また、具体的な改善点などはハグのお知らせを通して配信しています。	公開はしていない。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	11			
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11		研修は定期的に行っている。また、研修の担当は職員でローテーションしている。	最近個人的にあまり参加が出来ていないため、参加していきたい。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10			児童発達支援ガイドの項目が不明な為確認を図る。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の申し送り支援内容を確認し、メモ情報を持って療育に入っている。</li> <li>・疑問点などは、聞けたり次に繋がるアドバイスを指導してくれる人がいる。</li> </ul>	日々の業務に追われ、時間をつくってもらうのに抵抗がある場合もある。
--	---	-----------------------	----	--	--	-----------------------------------

				・療育中、計画内容を記した小さいメモを見れるよう、準備をしている。	
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	1	フランチャイズの教室なので、課題の内容や流れなどは、本部同様決まったものがありますが、プラスアルファの部分で、やる気を引き出すための工夫や声掛けの工夫など、子どもに合った提示方法をチームで検討しています。	
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		提示を工夫。	
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	10	1	個別支援計画には、個別療育課題と集団での課題が分かるように記載しています。記録として残す場合も、冒頭に集団での様子が分かるように工夫して残しています。	
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11		迅速かつ念入りに行う。	
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	3	次の療育時間があるため、一人一人の療育の振り返りは行えていませんが、それに代わる記録を残していま	毎日行っていない。

				す。当日記録が難しい場合は近日中に担当者が忘れずに行えるよう付箋で残すなどの工夫をしています。	
	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	同上	毎日行っていない。
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11	様々な職員からの視点を取り上げ、個別（子ども）ごとに会議をしている。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	保育所等訪問支援を開始するなど、サービス担当者会議が必要な場合には教室の管理者または児童発達支援管理責任者が参加しています。	担当制ではないから
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10	関係機関と連携をとって、パンフレットを置かせてもらったり、逆に教室に通われている保護者向けに情報を配信したりしています。	
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		医療ケアが必要な利用者の通所はありません。	
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		同上	

	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11			
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11			
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11			
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	10		療育スタイル上、難しい内容です。

	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	4		教室の管理者や児童発達支援管理責任者などが参加していますが、その内容の共有がしっかり出来ていません。今後はしっかりと共有できるように進めていきます。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11		<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育時間最後の振り返りを使って情報共有をおこなっている。</li> <li>・事業所評価をハグで行った際、一緒に今まで知らなかった方、親御様にも療育の記録を見ていただける機会が増えた。</li> </ul>	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	11			
保護者への説明	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11			
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示	11			

責 任 等		しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている				
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11		一緒に考えるスタンスをとっている。	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレントメンターに参加してもらっている講座（ペルルル会）を通して、保護者同士の交流の場を作っている。</li> <li>・ペルルル会を年2回行っている。</li> </ul>	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11			
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブログやハグを通して、変更なども載せている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討中</li> <li>・会報はない</li> <li>・</li> </ul>
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	11			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	6	療育のスタイル上、地域の方々の交流の場を設定することに限界があります。	
非 常 時 等	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11			

の 対 応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	11			
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこ どもの状況を確認している	10	1		完全には出来ていない。徹 底したい。 契約前のアセスメントシートに 保護者が記載してくれていま す。初期の情報共有時には 共有していますが、療育に直 接関係ないことが多く、継続 していません。必要な情報を 継続して共有できるように検 討していきます。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指 示書に基づく対応がされている	1			食事の提供はしていない
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有し ている	11		丁寧な話し合いを 心がけている。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保す る等、適切な対応をしている	11		意見交換をしてい る。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に事 前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達 支援計画に記載している	11			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。